

No. 58

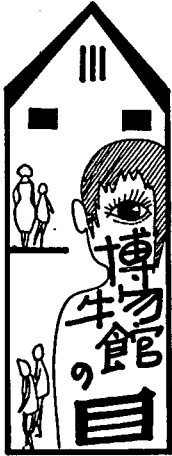
1982.

7. 10

# 岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-32 関市小屋名  
(百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL(05752)8-3111(代)  
振替 名古屋 6 37909



## 「学芸員とは何か」を見直そう！

博物館建設ラッシュは、日本列島全体の風土病と、外国人をして言わしめるほど、この4～5年間に200館を越えるものが建設され開館している。それとともに、博物館機能の中心的役割を担う学芸部職員も、急激に増加し、博物館の専門職員としての「学芸員」なる言葉も、一昔前と比べると社会に認められ定着化しつつあるかにみえる。

### 学芸員こそ特殊なスペシャリスト

博物館は、社会教育機関であることは確かである。しかし、その背景には、資料の収集・整理保存・調査研究が確立されているべきであり、単なる教育の場でないことは当然である。現実の学芸職員は、動植物や化石・岩石鉱物、あるいは考古、歴史、古文書、民俗等々の資料についての、学術的調査研究家であり収集家、そのうえ標本作成・資料整理のスペシャリストであらねばならない。しかもそのうえで、学校教育とは理念でも方法でも全く異質な教育実践家であらねばならない。技術系・教育系等の分化までも進んでいない日本の現況の中では、学芸職員は多くの面でスペシャリスト性を要求される特殊な雑芸の超人であらねばならない。理科の教員だから、社会科の教員だからというだけでは「学芸員」たり得ない多種多様な技能を要求されるだけに、やはり特殊専門職といっている。学芸員の博物館定着を！

社会教育審議会では、すでに昭和46年の春に、

こうした人的資源の重要さに目を向け、「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」の答申の中で、博物館の学芸員については、

「博物館には専門的職員として学芸員が置かれているが、その設置状況はきわめてふじゅうぶんで、専任の学芸員を置かない博物館が少なくない。学芸員には、博物館資料の収集・保管・研究のため、館種に応じた専門的知識が必要とされるほか、展示において教育的配慮を加え、集団または集会等による組織的教育活動を進めるため、社会教育に関する知識・技術に欠けてはならない。したがって、大学における博物館学に関する講座・科目の充実など学芸員の養成制度を改善し、社会教育における指導者としての位置づけをも明確にする必要がある。

また、各博物館に専任の学芸員を設置し、充実するとともに、これら学芸員が博物館に定着し、専門的技術を発揮できるよう、処遇改善の措置を講じなければならない。」と述べている。答申の具現化を！

博物館を地域社会に生かし、十分な学芸活動を推進するためには、建物・施設設備や資料、「もの」の充実はもとより、スペシャリストとしての博物館人、いわば雑芸多芸学芸職員の、博物館への定着、処遇改善が何よりもまず大切であろう。社会教育審議会の答申とか勧告とかは、単なる文化行政のポーズだけにすぎないのだろうか。博物館の諸機能を増大し、公共の教育機関として、世の人々の文化の向上に役立つためには、「学芸員とは何か」を見直す必要がある。 (J. M)

御嵩町郷土館

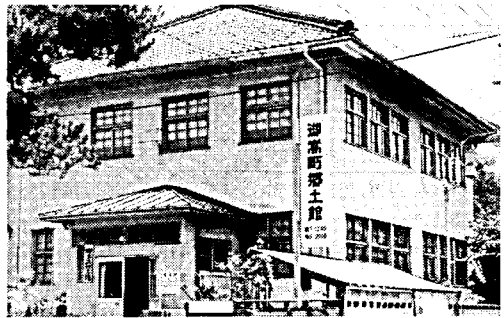
▽ 501-01 可児郡御嵩町

TEL 05746-7-1245

旧中山道御嵩宿に、町立の郷土館が今春開館しました。旧郡役所の建物をそのまま活用したもので、さしあたりは毎週水・土・日曜日のみの開館です。とにかく平田録郎館長の熱意は大変なものです。見学の際には、ぜひ直接に解説を受けるといいでしょう。御嵩町文化財審議委員でもあられる平田氏や、その仲間の歴史研究会のメンバーたちの努力が発端となって誕生した郷土館といえるでしょう。平田氏自身、各町内の夜の集会等にも出かけ、資料提出の依頼・説得行脚をされたとか、収集された資料・展示されている資料は、どれも町民からの提出・寄贈品とのことです。町の人々の暮らしを支えてきた貴重な民俗資料が主体で、衣食住、生業、通信運搬、儀礼、信仰行事、娯楽遊技、玩具等に分類され収集展示されています。この他に古文書類、考古資料等も数多く収集されており、いわばふるさとの歴史、民俗学習の資料保存館的役割が大きく、また「学習の場」となっています。

新しい動きとして注目されるのは、平田館長という熱情の人を得て、婦人の学習サークルが結成され、しかもその活動の場が郷土館内に設定されていることです。和室二部屋を使用し、

(土人形のコレクション)

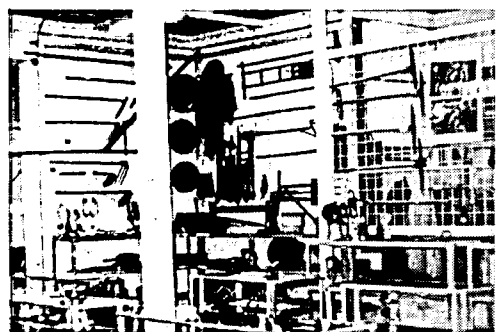


(郷土館全景)

草木染の実践研究活動が行なわれています。週1~2回、全く自主的に同好の婦人が集まり、タマネギの皮など、植物を使って染色を行ない、古い機織り器を修復したもので、実際に布を織る活動がなされ、その実物資料等もそのまま展示されています。各市町村等に、郷土館や民俗資料館が作られても、ややもすると資料の収集・保存庫に終始しがちで、その「もの」を生かして地域住民に、どう学習素材として役立つのかの方策に欠けることが多々みられます。郷土館を、真に郷土のものとするためには、やはり、地域住民と「もの」とを結びつけるヒトの存在が何よりも優先して考えられなくてははいけません。その意味からも、新しく出発したばかりの御嵩町郷土館は、場があり、ものが収集されており、そこにより指導者があり、しかもサークル的同好の人々が参集しつつあり……で、今後の活動が大いに注目されるところです。

開館午前9時~午後5時、休館毎週月・火・木・金曜日、年末年始、入観料一般200円、小中学生50円(30名以上団体割引)名鉄広見線御嵩駅下車徒歩2分ほどです。

(展示室、農器具の展示コーナー)



# 博物館学習へのアプローチ

## ～ 峰一合遺跡と中部山岳考古館へ～

羽島郡笠松町立松枝小学校 齋藤俊信

6年生の社会科として、岐阜県益田郡下呂町にある峰一合遺跡と、隣接する中部山岳考古館を組んで、博物館学習の実践をしたので、その一端を報告する。

峰一合遺跡は、縄文時代から弥生時代にかけての住居集落が復元しており、その当時の人々の生活を知る上で、利用価値の極めて高い施設である。また、中部山岳考古館には、峰一合遺跡からの出土品の外、岐阜県全域の石器や土器が展示しており、比較して学習するのに都合がよい。やはり、この両施設は一体として、よくその機能を果し得るものとする。

両施設を訪れるにあたって、子ども達に意欲的な学習をさせたいと、次のように取り組んだ。

### 1. 本校における博物館学習の基本型

- (1) 予備学習→学習問題→予想(現場学習前)
- (2) 事実の収集・観察 (現場学習)
- (3) 事実の分析→解決 (現場学習後)

子ども達が主体的に視点の連続を持って学習でき、実感的に受け止めができることをねらっている。今回もこの方法を用いた。

### 2. 現場学習前

・予備学習 — 峰一合遺跡へ行って何をみてるのか、何を知りたいのか、目的がはっきりしていないことには、現場へ行っても意味が浅

いものになる。そこで最初にリーフレットや写真などを使って、現場の概要を説明した。これによって、子ども達は自分なりにどんな所へ行くのかイメージを持った。その後、4人グループに分かれて図書室で、縄文時代・弥生時代のことについて、さらに深く調べていった。

・学習問題 — 調べていく段階で、自分の興味・関心のある学習問題を設定していった。社会科授業では、学級としての問題を設定していくことが多いが、今回はグループ毎にさせた。

見学ノートには、「住居の中はどんなだろうか」など、いろいろ問題が書かれていった。この問題作りが、博物館学習の一番大切な鍵となる。意欲的な問題作りが、現場へ行った時の子ども達の活動に大きく影響を与える。

見学ノートは子ども達にとって、とても役立った。絵もふんだんに取り入れながら書いていった。

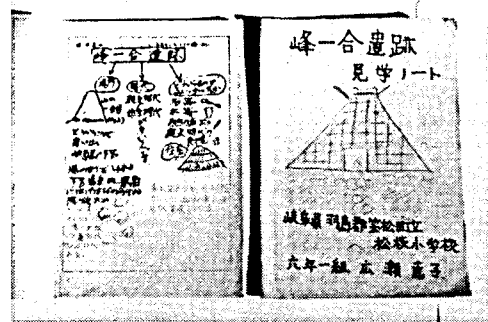
### 3. 現場学習

現場では、自分たちの問題に即して調べ、見学ノートにメモしていった。グループの中で、お互いに意見を交換しあいながら調べていく光景もみられた。

本校では、現場において、次のような観察のさせ方をしている。



(図書室で調べる子ども達)



(見学ノート)

### 三層性システム

- 第一層 自由に見る。
- 第二層 自分の問題や予想したこと、関心の高いものを具体的に観察する。
- 第三層 みんなで基礎的事実を確認し、補足していく。

今回も、現場においてこのシステムを用いた。子どもたちは、自分たちで自由に調べ、最後にまだ疑問に残る点をみんなで話し合った。

その話し合いの中で、今回、「復元の仕方」について疑問を持つ子がでてきた。社会科の好きなH男は、「峰一合遺跡にある住居は、どのように復元していったのか、まだよくわからないので知りたい。」と言った。他の子で、それについて答える子がなく、あらかじめ教師の方で用意していた絵を見せながら、説明していった。実物と絵を比較させての説明で、H男も納得したようだ。

#### 4. 現場学習後

学校へ帰ってきてから、見学ノートをもとに見学に行って学んだこと、驚いたことなどをまとめ、感想文を書いた。

#### S子の作文(部分)

「本物の遺跡を見るので、はじめは、とてもうきうきしていました。早く昔の人が生活した所を見たかったので、遺跡を見た時のうれしさは、とても大きかったです。遺跡を見て、とても驚きました。昔の人は、こんなせまい所で暮らしていたのか。昔の人は、こんな茶わんを使



(峰一合遺跡で調べる子ども達)

っていたのか。昔の家は、上がすけすけなので雨もりなんかしなかったんだろうか、などといういろいろなことを思いました。今まで、遺跡は写真でしか見たことがなかったので、本物を見ることができ、とてもうれしかったです。」

#### T男の作文(部分)

「縄文と弥生とくらべると、弥生の方が大きく入り口もかっこよかった。住居の中は暗く、下は土でぬれていた。雨とか雪がたくさん降ってきたらどうするんだろうと思った。でも、いろいろ工夫してあるなあと思った。」

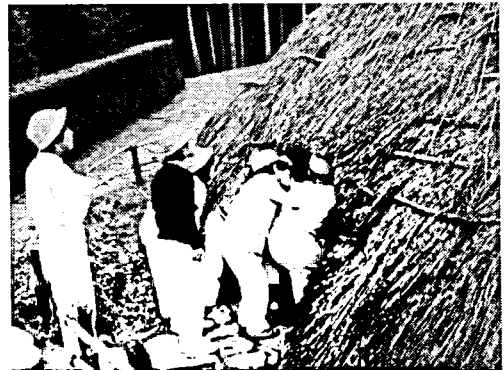
#### 5. 博物館学習を終わって

その場へ行って実際に手でふれ、観察してすることは、有意義なことである。本や写真から得られないものがそこにある。「峰一合遺跡」を観察している子どもたちの目の輝きは、教室の中とはまた違っていた。実物を前にする一つの感動があったように思う。

しかし、この感動を増幅し、意欲を高めるのは、現場へ行く前の問題作りだと思う。何を調べたいかという、子どもたちの意欲がなかったら、表面的な深みのない博物館学習になる。このことを今回強く感じた。

なお、今後の課題として、現場での子どもたちの疑問に対して、どう答えていくかということが残った。子どもの意欲を大切にされた答え方をさらに考えていきたいと思う。

紙面の都合上、詳細にわたって報告できませんでしたが、今後、もっと子どもたちの意欲を高める博物館学習を実践していきたいと思う。



(峰一合遺跡で調べる子ども達)

## 昭和56年度 岐阜県博物館協会収支決算書

収入総額 1,091,426円  
 支出総額 897,536円  
 差引額 193,890円

(収入の部)

(単位 円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減 (△)	摘 要
前年度より繰越	172,880	172,880	0	
会 費	414,000	366,500	△ 47,500	公立 27館 140,000円 私立 36ヶ 111,000 (過年度会費3000円を含む) 個人 32人 68,500 入会金 1人 2,000 高山市賛助会費 50,000
補 助 金	540,000	540,000	0	県 440,000 岐阜市 100,000
要 覧 頒 布 料	2,800	3,500	700	
雑 収 入	1,000	960	△ 40	
利 息	2,000	7,686	5,686	預金利息
計	1,132,680	1,091,426	△ 41,204	

(支出の部)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	予 算 残 額	摘 要
事 務 費	270,000	121,162	148,838	事務局運営費
通 信 連 絡 費	200,000	104,852	95,148	事務連絡旅費、郵便、電話料
会 議 費	10,000	0	10,000	
印 刷 費	30,000	10,000	20,000	資料タイプ印刷代
需 用 費	30,000	6,310	23,690	事務用消耗品費
機 関 紙 費	400,000	363,015	36,985	機関紙発行経費
印 刷 費	200,000	167,800	32,200	機関紙印刷代(54~7号)
送 料 費	90,000	85,600	4,400	機関紙郵送料
取 材 費	90,000	109,615	△ 19,615	日博協全国大会、三県博物館協会 交流研究会、その他取材経費
会 議 費	20,000	0	20,000	
セ ミ ナ ー 費	160,000	158,500	1,500	セミナー開催費(6回実施)
講 師 謝 金	30,000	45,000	△ 15,000	
会 場 費	30,000	10,000	20,000	
印 刷 費	10,000	0	10,000	
通 信 連 絡 費	60,000	81,000	△ 21,000	
会 議 費	30,000	22,500	7,500	
郷土芸能取材調査費	60,000	60,000	0	文化財保護協会へ実施委託
三 県 交 流 研 修 費	14,000	14,000	0	愛知県(北設楽郡東栄町)への旅費
東 海 博 総 会 費	52,000	10,000	42,000	
会 費	10,000	10,000	0	東海地区博物館連絡協議会会費
旅 費	42,000	0	42,000	
日博協全国大会費	39,000	31,264	7,736	東京都(東京国立科学博)への旅費
総 会 費	48,000	55,500	△ 7,500	総会開催経費(通常総会)
通 信 費	12,000	6,800	5,200	
会 場 費	6,000	6,000	0	
印 刷 費	10,000	0	10,000	
食 糧 費	20,000	42,700	△ 22,700	
学芸技術員講習会費	10,000	0	10,000	
役 員 会 費	40,000	36,840	3,160	役員会開催経費(2回)
表 彰 費	20,000	28,800	△ 8,800	協会3名、東海博1名
振 替 手 数 料	5,000	3,455	1,545	69件
慶 弔 費	10,000	15,000	△ 5,000	香典1件
予 備 費	4,630	0	4,630	
計	1,132,680	897,536	235,094	

## 昭和57年度 岐阜県博物館協会予算

(収入の部)

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	摘 要
前年度より繰越	193,890	172,830	21,060	
会 費	430,000	414,000	16,000	県立 1館 10,000円 市町村立 30館 (新規加入 3館を含む) 150,000 私立法入 50館 150,000 個人会員 32人 64,000 入会金 3人 6,000 高山市賛助会費 50,000
補 助 金	540,000	540,000	0	県 440,000 岐阜市 100,000
要 覧 頒 布 料	3,500	2,800	700	@700円 5部
雑 収 入	4,000	3,000	1,000	利息 3,000 その他 1,000
計	1,171,390	1,132,630	38,760	

(支出の部)

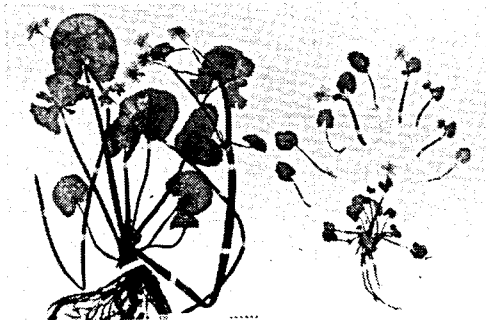
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	摘 要
事 務 費	200,000	270,000	△ 70,000	
通信連絡費	150,000	200,000	△ 50,000	事務連絡旅費、郵便、電話料
会議費	10,000	10,000	0	
印刷費	20,000	30,000	△ 10,000	資料印刷費
需用費	20,000	30,000	△ 10,000	事務用消耗品費
機 関 紙 費	400,000	400,000	0	
印刷費	200,000	200,000	0	機関紙印刷料
送料	90,000	90,000	0	機関紙郵送料
取会費	90,000	90,000	0	取材旅費、執筆謝金
会議費	20,000	20,000	0	機関紙編集会議開催費
セ ミ ナ ー 費	160,000	160,000	0	
講師謝金	30,000	30,000	0	@ 5,000円×6回
会場費	30,000	30,000	0	会場借上料 @ 5,000円×6回
印刷費	10,000	10,000	0	資料印刷料
通信連絡費	60,000	60,000	0	連絡旅費、郵便、電話料
会議費	30,000	30,000	0	企画打合せ会議費
郷土芸能取材調査費	60,000	60,000	0	文化財保護協会へ実施委託
三 岐 交 流 研 修 費	100,000	14,000	86,000	岐阜県当番 研修会設営経費
東 海 博 覧 会 費	50,000	52,000	△ 2,000	
会費	10,000	10,000	0	東海地区博物館連絡協議会会費
旅費	40,000	42,000	△ 2,000	静岡県(浜松市)への旅費
日 博 協 全 国 大 会 費	45,000	39,000	6,000	参加旅費(松山市)
総 会 費	56,000	48,000	8,000	通常総会開催経費
通信費	10,000	12,000	△ 2,000	
会場費	6,000	6,000	0	
印刷費	10,000	10,000	0	
食糧費	30,000	20,000	10,000	
学芸技術員講習会費	10,000	10,000	0	
常 任 理 事 会 費	65,000	0	65,000	新設
会議費	18,000	0	18,000	
旅費	47,000	0	47,000	常任理事出席旅費
役 員 会 費	0	40,000	△ 40,000	常任理事会に振替
表 彰 費	10,000	20,000	△ 10,000	協会5名
振 替 手 数 料	5,000	5,000	0	
慶 弔 費	10,000	10,000	0	
予 備 費	390	4,630	△ 4,240	
計	1,171,390	1,132,630	38,760	



## 三 県内 ニュース

### 特別展「ふるさとの植物」 県博へどうぞ

来る7月20日～9月5日まで、岐阜県博物館では「ふるさとの植物～分布のなぞをさぐる」と題し、特別展を開催します。日本列島の縮図ともいえる本県の植物社会を、豊富な腊葉標本を中心に、複製標本、写真、図表等で紹介しつつ、分布地理学的事実に焦点をしばり、ふるさと岐阜県の特異性を浮きぼりにするよう展示構成がなされています。8月8日には、井波植物研究所長井波一雄氏の講演があります。会期中の日曜日には「岐阜県の森林」「高山植物」のライド上映、自然に関する映画上映もあります。



△左は、湿地に生えるリュウキンカ。右はその変種でコバノリュウキンカ、飛騨山間部だけに自生が知られているふるさとの特産種です。

### 岐博協セミナーに参加を

本年度の第1回は、去る5月9日、岐阜県博物館において「高賀山の信仰」をテーマに、引続いて第2回が、7月8日、岩村町公民館において、「岩村町の文化財と保護組織」について。その都度会員各位には開催案内が送付されています。今後の予定としては、

第3回 北濃地区セミナー 8月下旬  
於 白鳥町立公民館  
テーマ 白山信仰の里  
講師 坪井市次郎氏（郷土史家）

第4回 岐阜地区セミナー 10月初旬

於 岐阜市少年科学センター  
テーマ 博物館の世界 — 美と力  
講師 広瀬 鎮氏（JMC学芸部長）

第5回 飛騨地区セミナー 11月中  
内容未定

第6回 西濃地区セミナー 58年2月中  
於 関ヶ原歴史資料館

テーマ 壬申の乱と不破の関

以上のように計画されています。

### 「団体利用の手引き」をどうぞ

岐阜県博物館では、各種団体、学校等の博物館団体見学を、よりよいものにしていただくために、「博物館とはこんなところですよ」「団体見学の諸手続き案内」「楽しく効果的に博物館を利用する具体事例」「スライド、VTR、映画等の教材一覧」等を内容とした小冊子（P12）「岐阜県博物館 団体利用の手引き」を発行しました。ご活用ください。

### 三県博物館協会交流研の 共通テーマ決定

愛知・岐阜・三重の博物館人の交流研究会も、本年は第七回が岐阜県博物館を主催場に、10月4～5日と行なわれます。「博物館は、入館者（地域住民）のニーズにどのように応えているか」を共通テーマとすることが決まりました。今から、各館園でも、この面での実践研究を深めてくださり、より多くの博物館人が、より多くの悩みと教育実践とを胸に、大会に参集ください。

### 編集後記

◎昭和57年度第1号が遅れましたことをまずお詫びします。

◎以前に、本誌の編集責任者だった柴田学芸員が、昨年9月より県博学芸部勤務となり、本誌の編集委員に加わりました。

◎59号(夏の号)60号(秋の号)61号(冬の号)と、以後定期刊行するよう頑張ります。(S.O)